

2月13日 徳島新聞朝刊にイマデヤの 新たな取り組みが掲載されました。

イマデヤ 仏衣30種用意

遺族、選択の幅広がる

葬祭業のイマデヤ類そろえ、似合うものだけ豊富な仏衣を取り（徳島市）は、故人がを遺族らに選んでもらえる葬儀社は珍しいという。

これ

従来は定番の白をはじめ、ピンク、紫など5色のみだったが、サクラ、スイセンなどの柄入りの着物や羽織もそろえた。柄入りの着物は、胸元を生前とは反対の左前に合わせた時に柄が合うようにしている。

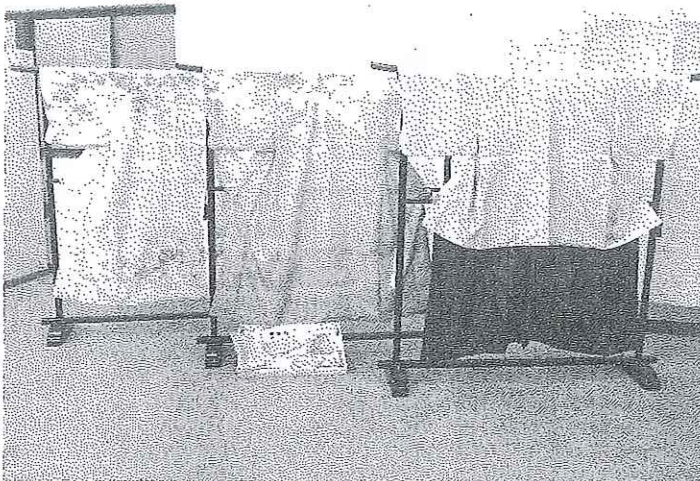
パンフレットと生地の見本を準備し、遺族は故人の顔元に直接生地を当てて選べる。三角布や手っ甲、脚半など

ども仏衣と同色のものを用意した。

近年の葬儀は祭壇やひつぎ、骨つぼ、仏衣などをセットにしたプランが主流で、大半の故人が白い仏衣を身に着けているという。葬儀までの限られた時間の中で「故人に何かしてあげたい」「最期の姿を大切にしたい」と考える遺族の思いに

える一つの手段として、仏衣を選んでもらうことにした。

イマデヤは今後、仏衣をセットプランから外す予定。値段を気にせずに選んでもらえるよう、30種類のうち25種類は同じ価格にする。（中野由梨）



柄入りの着物や羽織などを取りそろえ、30種類から選べるようになった仏衣。徳島市西国本町2のイマデヤ